



地質調査所報告

第二百二十二號

(昭和十三年度事業報告)

地質調査所報告 第一百二十二號 昭和十五年二月

目次

昭和十三年度事業報告

昭和十三年度事業報告

目次

地質係	一
油田係	二
地形係	一〇
分析係	一四
鑛物陳列館	一五
文庫	一七
庶務	二〇
出版物	二五
職員	二七

昭和十三年度事業報告

地質調査所長 山根 新次

地質係

一、岡幅調査

本年度ニ於テ調査シタル七萬五千分之一地質岡幅ハ其數ニシテ其岡幅名調査員其他左表ニ示スガ如シ。

(岡幅名) (調査員) (野外調査期間) (記 事)

浪 江

渡邊技師	昭和十三年	自八月二十三日	至九月五日
千藤技手	昭和十三年	自十二月二十三日	至十二月二十六日

本年度着手、調査完了

那 智 鈴木技師

昭和十三年十二月十六日
昭和十四年三月三十一日

十二年度着手、調査完了

油田係

一、油田調査

本年度ニ於テ調査シタル油田、物理探鑛調査區域調査員其他ハ左表ノ如シ。

(イ) 油田地質精査

	(調査油田)	(調査員)	(野外調査期間)
北海道	振老	竹原技師	昭和十三年 自十月十七日 至十月十七日
新潟縣	竹川澤口	金原技師	昭和十三年 自十月十六日 至十月八日
秋田縣	七座、八森、飯田川、湯西	遠藤技師	昭和十三年 自六月二十九日 至十月三十一日
新潟縣	米山	三土技師	昭和十三年 自八月十一日 至十一月二十四日
新潟縣	岩田	飯塚技師	昭和十三年 自八月二十五日 至十二月二十二日
青森縣	鯉ヶ澤	兼子技師	昭和十三年 自十一月四日 至十一月四日

(記 事)

(口) 物理探鑛調査

(調査地)

(調査員)

(野外調査期間)

(記事)

秋田縣能代(電氣探鑛)

紺野技師

昭和十三年自六月二十一日至十月五日

新潟縣中之島地方(地震探鑛)

波江野技師
西川技師

昭和十三年自六月二十五日至十一月五日

同 水原(重力)

淵田技師

昭和十三年自十月二十三日

(八) 試錐調査

(調査地)

(試錐探度)

(記事)

秋田縣山本郡濱口村

三〇〇米

能代油田西部地質調査

秋田縣南秋田郡大川村

三〇〇米

五城目油田 同

新潟縣中蒲原郡橋田村

三〇〇米

新津油田 同

新潟縣中頸城郡保倉村

二一五米

新潟縣米山油田 同

(三) 特別調査

(調査件名)

(調査員)

(野外調査期間)

新潟縣佐郡西國東郡徵候地
 千谷技師
 昭和十三年
 自四月二十三日
 至四月二十三日

群馬縣草津白根火山
 渡瀬技師
 昭和十三年
 自四月二十五日
 至四月二十九日

新潟縣東山、新津油田
 三土技師
 昭和十三年
 自四月二十九日
 至五月四日

新潟縣東山、西山油田
 竹原技師
 昭和十三年
 自四月二十九日
 至五月五日

新潟縣加治田
 千谷技師
 昭和十三年
 自四月二十九日
 至五月十四日

大分縣日田郡星野金山
 山根所長
 昭和十三年
 自五月二十六日
 至六月四日

秋田縣高吉乃
 植村技師
 昭和十三年
 自六月二十五日
 至八月一日

青森縣高吉乃
 野口技師
 昭和十三年
 自六月十七日
 至六月十七日

北海道高吉乃
 野口技師
 昭和十三年
 自六月十七日
 至六月十七日

宮城縣丸森、大崎、山
 赤木技師
 昭和十三年
 自八月二十四日
 至八月二十四日

石油坑道掘調査ニテ新潟縣東山、新津兩油田及秋田縣桂根油田ノ地質調査ニ出張セリ。

(調査地) (調査員) (野外調査期間) (記事)

新津、東山、桂根 千谷技師

昭和十三年 自十月十三日 至十月三十一日

東山 同

昭和十四年 自二月六日 至二月六日

東山、桂根 同

昭和十四年 自三月十三日 至三月十三日

新津 金原技師

昭和十三年 自十一月二十三日 至十一月二十三日

新津 同

昭和十三年 自十二月二十三日 至十二月二十三日

新津 同

昭和十四年 自一月二十九日 至一月二十九日

新津 同

昭和十四年 自二月十九日 至二月十九日

新津 同

昭和十四年 自三月二十日 至三月二十日

桂根、新津 遠藤技師

昭和十三年 自十一月十七日 至十一月十七日

桂根 同

昭和十四年 自一月十八日 至一月十八日

東 東 東 東 東 東 東 岩 桂 桂 桂

手 縣 松 尾、桂

山 山 山 山 山 山 山 根 根 根 根

同 同 同 同 同 同 兼 同 同 同 同

子 技 師

昭和十四年 自三月十六日 至三月三十一日	昭和十四年 自二月二十七日 至三月四日	昭和十四年 自二月二十六日 至二月二十八日	昭和十四年 自一月二十九日 至一月二十八日	昭和十三年 自十二月十三日 至十二月二十一日	昭和十三年 自十二月十一日 至十二月十一日	昭和十三年 自十一月二十九日 至十一月二十九日	昭和十四年 自三月二十四日 至三月三十一日	昭和十四年 自二月十一日 至二月二十二日	昭和十四年 自一月二十五日 至一月二十五日
----------------------------	---------------------------	-----------------------------	-----------------------------	------------------------------	-----------------------------	-------------------------------	-----------------------------	----------------------------	-----------------------------

二、受託調査

本年度受託調査八十九件ニシテ其件名、調査員其他左表ノ如シ。

(調査件名)	(調査員)	(野外調査期間)	(調査申請人)
中華民國察哈爾省龍烟鐵鑛	赤木技師	昭和十三年 自四月一日 至七月十二日	興中公司 河信二
岡山縣眞庭郡八束村花園硅藻土鑛	佐藤技師	昭和十三年 自四月二十日 至四月三十日	福田有造
臺灣臺南州新豐郡永康庄附近地震探鑛	西川技師	昭和十三年 自四月二十二日 至五月八日	日本鑛業株式會社社長 伊藤藤文吉
北海道天鹽國小平藜南部炭田	渡瀬技師	昭和十三年 自五月十三日 至六月八日	ラサ工業株式會社 小島甚太郎
新潟縣中魚沼郡六箇村石油地試掘井位置選定	千谷技師	昭和十三年 自六月十三日 至六月十四日	早川靜夫
青森縣上北郡荒川村試登第三七一一號鑛區調査	植村技師	昭和十三年 自七月十三日 至七月十三日	野中巖
滿洲國鐵、石炭及石油鑛產資源	石井技師 佐藤技師	昭和十三年 自七月十二日 至九月十一日	滿洲國產業部鑛工司長 椎名悦三郎
福島縣南會津郡館岩村小高林螢石	鈴木技師	昭和十三年 自七月十七日 至七月二十三日	佐藤和三郎

青森縣上北郡六ヶ所村石油鑛區	千谷技師	昭和十三年	自七月二十八日 至八月一日	中曾根丈衛
神奈川縣戶塚町附近地下水	渡邊技師	昭和十三年	自七月二十九日 至八月二日	光永政介
宮城縣栗駒山硫黃及硫北鐵鑛床	藺部技師	昭和十三年	自八月二十五日 至九月六日	昭和硫黃工業株式會社 木村靜夫
鹿兒島縣始良郡敷根地方天然瓦斯	鈴木技師	昭和十三年	自九月二日 至九月十一日	日本水電株式會社 上野喜左衛門
北海道北見國常呂郡留邊蘆町伊屯武 華水銀鑛區	植村技師	昭和十三年	自九月八日 至九月十五日	中島敏治
熊本縣上益城郡津森村硫化鐵鑛	鈴木技師	昭和十三年	自九月十二日 至九月十七日	滿洲化學工業株式會社 野中巖
島根縣簸川郡鰐淵鑛山電氣探鑛	紺野技師	昭和十三年	自十月十五日 至十一月十九日	昭和鑛業株式會社 森島轟
新潟縣魚沼郡十日町、六箇村試掘位 置選定	千谷技師	昭和十三年	自十一月十五日 至十二月十八日	北越石油株式會社社長 篠塚宗吉
鳥取縣東伯郡北谷、高城村地質鑛床	佐藤技師	昭和十三年	自十二月二十五日 至一月二日	齋藤昌夫
秋田縣龜田町試掘井位置選定	千谷技師	昭和十三年	自十二月二十二日 至一月二十六日	渡邊昇太郎
靜岡縣大平金山	赤木技師	昭和十四年	自三月八日 至三月十九日	大平金山株式會社 木彌市

前記受託調査ノ外植村技師、波江野技師、紺野技師、西川技師、神永技師、田村技師、海軍省囑託

ニ依リ臺灣油田ノ一部ヲ、松澤技師ハ陸軍省囑託ニ依リ北支ヲ調査シタリ。

地形係

(甲) 測量

一、圖幅測量

本年度ニ於テハ圖幅測量ハ之ヲ施行セス。

二、油田測量

本年度ニ於テ施行シタル油田測量ハ左ノ如シ。

(測量地名)

秋田縣山本郡能代南部
同 八森村

北海道勇拂郡安平村

同 上

新潟縣中頸城郡米山油田

(測量員)

及川囑託
青山履
茅山履

及川囑託
茅山履

青山履

久松技師
加々美技師
和田履

(測量期間)

昭和十三年 自六月二十日
至八年十九日

昭和十三年 自八月二十日
至九月十六日

昭和十三年 自八月二十日
至十月三日

昭和十三年 自六月二十二日
至十月二十九日

(記事)

紺野技師ノ調査ニ伴フ

三土技師ノ調査ニ伴フ

北海道勇拂郡振老油田

秋田縣山本郡八森油田

同 南秋田郡湯西油田

同 上飯田川油田

同 北秋田郡七座油田

青森縣西津輕郡鱒ヶ澤油田

新潟縣中頸城郡湯町村

秋田縣山本郡能代南部

新潟縣刈羽郡三島郡岩田油田
同 北魚沼郡、中魚沼郡川口油田

新潟縣北蒲原郡水原町

小川 技手

昭和十三年 自五月十六日
至九月二十七日

竹原技師ノ調査ニ伴フ

武田 技手
鈴木 本履

昭和十三年 自六月十一日
至九月二十九日

遠藤技師ノ調査ニ伴フ

武田 技手

昭和十三年 自九月三十日
至十二月二日

兼子技師ノ調査ニ伴フ

小松 技手
宮本 履

昭和十三年 自七月三十日
至八月二十一日
昭和十三年 自十月二十九日

波江野技師ノ調査ニ伴フ

笹井 囁記

昭和十三年 自五月二十三日
至九月四日

飯塚技師ノ調査ニ伴フ
金原技師ノ調査ニ伴フ

山下 技手

昭和十三年 自五月十七日
至八月十七日

磯崎 技手

昭和十三年 自七月八日
至十月十八日

葦澤 技手

昭和十三年 自十月三日
至十二月一日

淵田技師ノ調査ニ伴フ

三、特別測量

本年度ニ於テ施行シタル特別測量ハ左ノ如シ。

(測量地名)

(測量具)

(測量期間)

(記事)

群馬縣吾妻郡白根火山

武田 技手

昭和十三年 自四月十五日
至四月二十九日

渡瀬技師ノ調査ニ伴フ

秋田縣雄勝浦吉乃鐵山

青森縣上北郡高森鐵山

新潟縣下鐵物資源調査
福島縣下有用土石調査

青森縣上北郡高森鐵山
北海道岩内郡國富鐵山

四、受託調査ニ伴フ測量

本年度ニ於テ施行シタル受託調査ニ伴フ測量ハ左ノ如シ。

(調査件名)

中華民國察哈爾省龍烟鐵鐵

靜岡縣田方郡大平金山

滿洲國間島、吉林、奉天、錦州、
各省鐵產資源調査

島根縣簸川郡鰐淵鐵山

及川 村尾 青山 茅山 託履履履

及川 村尾 茅山 託履履履

中 川 履

小松 堀本 宮澤 技手 履履履

昭和十三年 自六月十九日 至六月十九日

昭和十三年 自九月十七日 至十月十六日

昭和十三年 自十月九日 至十月十五日
昭和十三年 自十月十六日 至十月二十四日

昭和十三年 自六月二十七日 至七月二十九日
昭和十三年 自八月二十二日 至九月三十日

(測量員)

村田 技手

小松 技手

葦澤 村上 技手 履

橋本 履

(野外測量期間)

昭和十三年 自四月一日 至七月十二日

昭和十四年 自三月八日 至三月十八日

昭和十四年 自七月十二日 至九月十一日

昭和十三年 自十月十五日 至十月十九日

野口技師ノ調査ニ伴フ

崗部技師ノ調査ニ伴フ

野口技師ノ調査ニ伴フ

(記事)

赤木技師ノ調査ニ伴フ

赤木技師ノ調査ニ伴フ

石井技師及佐藤技師ノ調査ニ伴フ

紺野技師ノ調査ニ伴フ

前記受託調査ノ外久松技手、小松技手ハ海軍省ノ囑託ニヨリ臺灣油田ノ一部、鈴木昇技手ハ陸軍省ノ囑託ニヨリ北支那炭田ノ一部、村田技手、小川技手ハ燃料局ノ囑託ニヨリ新潟縣東山油田、新津油田及秋田縣桂根油田ノ一部ノ測量ニ從事セリ。

(乙) 製 圖

一、圖 幅

七萬五千分一圖幅地形原圖ノ本年度中ニ完成セルモノ其數三、着手後未完成ノモノ其數四ニシテ其圖幅名製圖員其他左表ノ如シ。

(圖 幅 名)	(製 圖 員)	(記 事)
森 吉 山	笹 原 技 手	昭和十一年度着手、本年度完成
相 川 土 岐	技 手	昭和十二年度着手、同
下 田 同	技 手	本年度着手、同
鶴 來 奧 田	技 手	昭和十一年度着手、本年度未完成
琴 平 小 宮 山	技 手	昭和十二年度着手、同
佐 伯 相 見 技 手	同	同
那 智 神 村 技 手	同	同

二、油田地形及地質圖

粘 土	螢 石	鑛 物	金 銀	銅 鑛	鐵 鑛	マンガン 鑛	ニッケル 鑛	タンゲステン 鑛	モリブデン 鑛
--------	--------	--------	--------	--------	--------	-----------	-----------	-------------	------------

二三	五	三	二六八	二	七七	二	四一	二	一二
----	---	---	-----	---	----	---	----	---	----

七〇	五	二九	五四七	四	三八四	三	六三	三	一七
鑛	合	黑	石	磷	硫	原	天然	計	
石	金	鉛	炭	礦	礦	油	瓦斯	計	

四三	一	一	一八	三	一八	二四	一	二二	六二六
----	---	---	----	---	----	----	---	----	-----

一七二	四	四	九〇	四	一九	一八八	七	一九二	二一八九
-----	---	---	----	---	----	-----	---	-----	------

右ノ外工業品規格統一調査會ニ於ケル分析法制定ノ爲前年度ヨリ引續キ研究分析ヲ施行セリ。田畑技手ハ赤木技師ノ調査ニ伴ヒ昭和十三年二月十五日ヨリ七月十二日迄蒙疆地方ニ出張、鐵鑛ノ分析ニ從事セリ。

鑛物陳列館

陳列中ノ鑛物、岩石鑛石及化石竝ニ本所出版地質圖類ハ本年度末ニ於テ總計約七千六百點

ニ達シタリ。

本年度内ニハ購入標品無カリシモ本所員蒐集ニヨルモノ及所外有志ノ寄贈ニヨルモノ多
數アリ。

本年度ニ於ケル參觀者小計ハ五百四十九名ニシテ前年度ニ比シ益々増加ノ傾向ヲ示シツ
ツアリテ昭和八年開館以來ノ累計ハ貳千貳百參拾四名ナリ。

左ニ受領セル寄贈標品及寄贈者芳名ヲ錄シ以テ謝意ヲ表ス。

寄贈標品

(鑲物名)

(産地)

(寄贈者氏名)

滿	鑲	柘木縣上都賀郡加蘇鑲山	吉村豐文
硅灰鐵鑲、灰鐵輝石、魚眼石	鑲	岐阜縣 神岡鑲山	松澤勳
黃玉	玉	同 苗木	渡邊久吉
冀東粘土ヂアスポル石	石	河北省古冶	永井彰一郎
冀東粘土	土 A	同 唐山	同
同	土 B	同 同	同
長城粘土	土	同 石門寨	同
鷄冠石	石	同	大井上義近
螢石大型群品	品	福島縣南會津郡筥岩村岩里	佐藤和三郎

魚 石 滿 化 僱 鑽

群馬縣吾妻郡中條町北方
宮崎縣西臼杵郡岩手村

小 山 一 郎
片 山 信 夫

文 庫

本年度本邦ノ官廳、大學、學會、博物館、會社等ノ交換先ヨリ圖書ノ寄贈ヲ受ケタルハ七十六箇處ニシテ受入圖書數次ノ如シ。

官 會	計	官 會	計
大學、學會、圖書館、博物館等	二	大學、學會、圖書館、博物館等	二
社	七	社	七
計	九	計	九
(交換先)	二九	(交換先)	二九
(箇處數)	四五	(箇處數)	四五
(地質圖)	六	(地質圖)	六
(地形圖)	六	(地形圖)	六
(報文類)	三九	(報文類)	三九
	七		七
	五二九		五二九

交換先以外ノ官廳、學會、會社等ヨリ圖書ノ寄贈ヲ受ケタルハ十六箇處ニシテ個人ノ好意ニヨリ特ニ貴重ナル圖書ヲ寄贈サレタルモノ十二件アリ、錄シテ以テ謝意ヲ表ス。

官 會	計	官 會	計
大學、學會、圖書館、博物館等	七	大學、學會、圖書館、博物館等	七
社	一	社	一
計	八	計	八
(寄贈先)	七	(寄贈先)	七
(箇處數)	五	(箇處數)	五
(地質圖)	一	(地質圖)	一
(地形圖)	一	(地形圖)	一
(報文類)	一八	(報文類)	一八
	一		一
	一九		一九

會 個

計

社 人

一
一二
二八

九三
九三
九三

六五
七〇

一
二三
六一

本邦ノ官廳、大學、圖書館、博物館、會社及個人ニ對シ本所出版物ヲ發送シタル交換先六十箇處、其他二百二十六箇處ニシテ寄贈圖書及部數左ノ如シ。

(交 換 先)

(箇 處 數)

(地 質 圖 幅 及 同 說 明 書)

(油 田 圖 及 同 說 明 書)

官 廳
大 學、學 會、圖 書 館、博 物 館 等
會 社

計

二 四
三 二
四
六 〇

一 〇 〇
一 三 二
一 六
二 四 八

七 五
一 〇 五
一 二
一 九 二

(其 他)

官 廳
大 學、學 會、圖 書 館 等
會 社
個 人

計

七 五
六 五
九
七 七
二 二 六

三 〇 〇
二 八 〇
三 六
三 〇 八
九 二 四

二 二 五
二 一 〇
二 七
二 三 一
六 九 三

同 地質調査所へ 同
 同 滿洲鑛業開發會社へ 同
 同 上海自然科學研究所へ 同
 同 購入圖書ハ地質圖一幅地形圖四幅書籍五十三冊歐文雜誌八十四種三百四十七冊ナリ。即チ次ノ如シ。

地質學及地理學ニ關スルモノ	化學及其應用ニ關スルモノ	其他	合 計
(地質圖)	一	一	二
(地形圖)	四	四	八
(書籍)	四二	一一	五三
(歐文雜誌)	一三	二	一五
冊	二三四	一一三	三四七

庶務

所員ノ異動左ノ如シ。

任 命

技師 竹原平一
 技師 金原均二

技手 白土 忠

技手 高橋 正道

技手 藤谷 吉太郎

技手 川田 福三

技手 古澤 實

退 職

技師 渡瀬 正三郎

技師 渡邊 久吉

技師 植村 癸巳男

技師 佐藤 戈止

技手 關根 森之助

技手 神永 幸三

休 職

技手 磯崎 三郎

死 亡

技手 土岐次郎

地質係長技師理學博士渡邊久吉氏ハ嚮ニ九州帝國大學教授ニ兼任セラレシ處昭和十三年十二月十四日同大學教授ニ專任セラレタリ。氏ハ明治四十五年七月本所ニ奉職シ、爾來二十八年ノ長キニ互リ攷々トシテ業務ニ精勵セラレ、昭和七年ヨリ地質係長トシテ地質調査事業全般ノ統轄ニ參劃セラル。其ノ間獨リ本所ノ事業ノミナラズ本邦竝ニ東亞ノ學術及產業ノ發展ニ貢獻スル處極メテ大ニシテ其ノ功績定ニ顯著ナリトス。退職後モ囑託員トシテ本所ノ事業ニ參與セラル、ハ本所ノ幸トスル所ナリ。

地形係長技師佐藤戈止氏ハ昭和十四年三月三十日依願官職ヲ免ゼラレタリ。氏ハ大正十一年職ヲ本所ニ奉ジ、昭和七年ヨリ地形係長トシテ測量製圖ノ事業ヲ督セラレ、其ノ功没スベカラズ。

技師植村癸巳男氏ハ昭和十四年二月六日、技師渡瀬正三郎氏ハ昭和十三年十二月八日夫々依願官職ヲ免ゼラル。兩氏ハ共ニ長ク職ヲ本所ニ奉ジ、其ノ事業ノ進展ニ資シ、功勞顯著ナルモノアリ。

報告會 本年度ニ於ケル報告會ハ九回開催シ、各技術官擔任ノ業務ニ就キ報告ヲ爲シ、討議研究セリ。

經費 本年度經費左ノ如シ。

經常費

俸 給

四五、七八二圓

事業費

五二、三一九圓

臨時費

液體燃料自給促進費 二九七、六一三圓

本年度ニ於テ左記經費ヲ要求、承認ヲ得タリ。

地質鑛床調査促進ニ要スル經費六ヶ月分

俸 給 一三、一一一圓 (技師五人、屬一人、技手一人)

事業費 一三七、九〇一圓

地質鑛床調査促進ニ要スル經費九ヶ月分

俸 給 一四、〇五八圓 (技師四人、屬一人、技手七人)

事業費 五六、四七〇圓

油田調査ノ物理探鑛施設擴充ニ要スル經費

俸 給 五、一一五圓 (技師一人、技手四人)

事業費 二九、七一三圓

出版物

地質調査所報告

第一二一號

昭和十二年度事業報告

地質調査所長

山根

新次

地質圖幅

角館圖幅

商工技師

佐藤

源郎

福井圖幅

商工技師

藺部

龍一

御坊圖幅

商工技師

鈴木

達夫

延岡圖幅

商工技師

石井

清彦

大日本帝國油田圖

第三十六區 新潟縣岡野町油田地形及地質圖

商工技師

渡邊

久吉

第三十七區 新潟縣新津油田南部地形及地質圖

第三十八區 山形縣飽海油田地形及地質圖

商工技師 遠藤六郎

第三十九區 北海道稚內油田地質圖

商工技師 三土知芳
商工技師 金原均二

商工技師 竹原平一

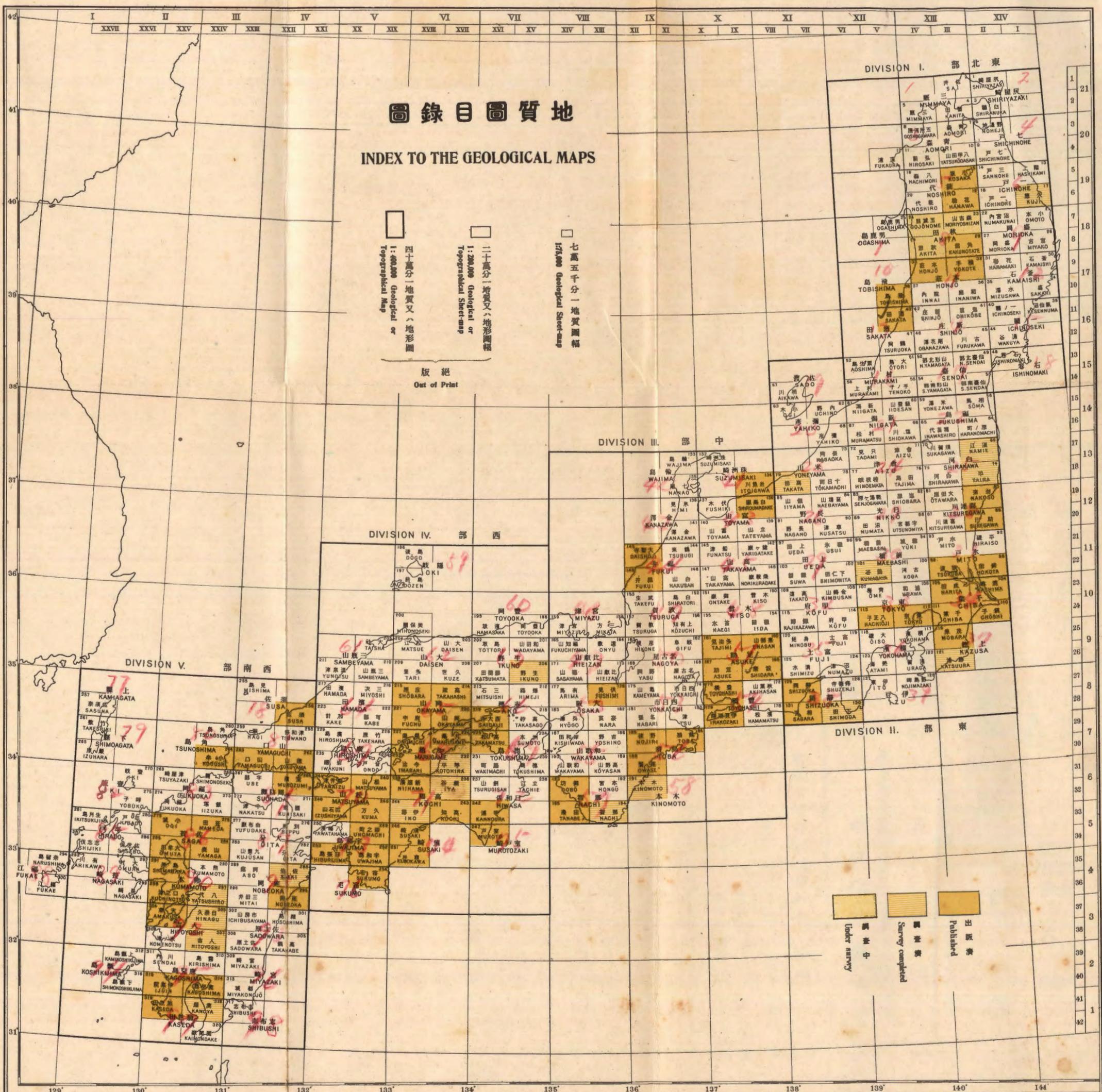
地質調査所職員

(昭和十四年三月末現在)

技師	所長	山根新次	技師	地形係長	石井清彦	技師	分析係長	大野 赴
兼油田係長技師		千谷好之助	技師		鈴木達夫	技師	嘱託	
技師		飯塚保五郎	技師		佐藤源郎	技師		赤木 健
技師		三土知芳	技師		松澤 勳	技師		波江野清藏
技師		野口 高	技師		紺野芳雄	技師		遠藤六郎
技師		平塚隆治	技師		金原均二	技師		淵田隆門
技師		竹原平一	技師		池邊展生	技師		吉田貞次
技師		岩生周一	技師		片山信夫			
屬		兼子 勝	屬		秋本龍雄	屬		河野輝一
		佐藤友治郎			神村龍造			相見角治
技師		久松將四郎	技師		村田近良	技師		米谷菊太郎
技師		奥田 稔						

技手	武田季次郎	技手	小川清澄	技手	笹原榮雄
技手	小宮山 湛	技手	松崎美房	技手	小松直藏
技手	石田與之助	技手	磯野 清	技手	齋藤正次
技手	秋野梅太郎	技手	西川與志男	技手	鈴木 昇
技手	千藤忠昌	技手	芦澤文夫	技手	田畑政治
技手	水野 初	技手	田村清一	技手	室住正義
技手	山下 章	技手	萬 芳三	技手	白土 忠
技手	高橋正道	技手	加々美時寛	技手	金子政利
技手	藤谷吉太郎	技手	川田福三	技手	古澤 實
囑託	笹井泰造	囑託	及川常吉	囑託	淺岡隼太
囑託	松澤武雄	囑託	渡邊久吉		
技手	磯崎三郎				

休 職



圖錄目圖質地

INDEX TO THE GEOLOGICAL MAPS

四十萬分一地圖又ハ地形圖
 1:400,000 Geological or Topographical Map

二十萬分一地圖又ハ地形圖幅
 1:200,000 Geological or Topographical Sheet-map

七萬五千分一地圖圖幅
 1:75,000 Geological Sheet-map

版 紙
Out of Print

Under survey
 Survey completed
 Published

昭和十五年三月二十五日印刷

昭和十五年三月三十一日發行

定價金 七拾錢
郵稅金 六錢

著作權所有 商 工 省

東京市王子區神谷町一丁目四百八十二番地

印刷者 吉 田 了 太

東京市王子區神谷町一丁目四百八十二番地

印刷所 東京印刷株式會社

東京市麴町區二番町十二番地

發行所 東京地學協會

電話九段(33)〇五〇九番
振替口座東京六六二七八番

IMPERIAL GEOLOGICAL SURVEY OF JAPAN

REPORT No. 122



Annual Report for the Year ended March 31, 1939

By

SHINJI YAMANE, Director

Division of Geology : The mapping work of the 1:75,000 Geological Sheet Map area of Nachi (Zone 32, Col. XXX, No. 194), which was not completed in the preceding year, was carried on and that of Namie (Zone 17, Col. III, No. 69) was newly undertaken, both having been completed within this fiscal year.

For the Oil-land Survey, six geologists were engaged in field works of the Fureoi oil-field in Hokkaidô, Ajigasawa oil-field in Aomori, Nanakura, Hachimori, Iidagawa and Katanishi anticlines in Akita, and Kawaguchi-Takezawa, Yoneyama and Iwata oil-fields in Niigata. Four parties of engineers and their assistants were despatched for geophysical prospecting applying the electrical, seismic and gravitational methods in the oil-fields of Abira in Hokkaidô, Noshiro in Akita and Suibara, Nakanoshima and Meiji-mura in Niigata.

To test geological structures four core-borings up to the depth of 300 metres were drilled in the oil-fields in Akita and Niigata. Also four geologists were sent to conduct the underground mining operations set at work in the oil-fields of Higashiyama and Niitsu in Niigata, and Katsurane in Akita.

As the special geological works, several geologists were sent to inspect the oil-fields in Hokkaidô, Yamagata, Niigata and Shizuoka; to investigate ore deposits of the Taiwo gold mine in Ôita and Hoshino gold mine in Fukuoka; the metal mines of Yoshino in Akita, Takamori in Aomori, Kunitomi in Hokkaidô, Marumori, Ômori and Tôgatta in Miyagi, and Matsukawa and Sugisaki in Fukushima; the asbestos deposits of Ishikari and Hidaka in Hokkaidô; industrial mineral deposits in Niigata and Fukushima; the land-slip occurred at the Kusatsu mine in Nagano.

In response to the requests offered from the public, geologists and engineers were sent to investigate the geology and mineral deposits, etc. of various localities, which are as follows: Lungyen iron ore deposits in Chahar; diatom-earth in Yatsuka, Maniwa-gun, Okayama; the seismic prospecting at the vicinity of Yeikou, Niitoyo-gun in Tainan, Taiwan; southern part of the Opirashibe coal-field, Hokkaidô; petroleum in Rokka-mura, Nakuwonuma-gun, Niigata; a mining prospecting in Arakawa-mura, Kamikita-gun, Aomori; some iron, coal and petroleum deposits in Manchuria; fluorspar in Tateiwa-mura, Minami-aizu-gun,

Fukushima; petroleum geology of Kamikita-gun, Aomori; underground water in the vicinity of Totsuka, Kanagawa; sulphur and pyrite deposits near Kurikomayama, Miyagi; natural gas in Shikine, Aira-gun, Kagoshima; quicksilver ore deposits in Rubeshibe, Tokoro-gun, Kitami, Hokkaidô; pyrite deposit of Tsumori-mura, Kamimashiki-gun, Kumamoto; the Wanibuchi mine, Hinokawa-gun, Shimane; oil prospecting in Tôka-machi and Rokka-mura, Naka-uwonuma-gun, Niigata; geology and ore deposits of Kitatani and Takashiro-mura, Tottori; oil geology of Kameda-machi, Akita; Ôhira gold mine, Shizuoka.

Division of Topography: The field and drafting works of the topographical maps were mostly carried on in connecting with the Oil-land Survey and geophysical prospecting. The field works of five topographical maps of oil-lands were completed and drafting works of four topographical and geological maps were accomplished. Further, a number of topographical maps on large scale were prepared by 10 topographers and 10 assistants.

Drafting works of the 1:75,000 Geological Sheet-Maps of Moriyoshi, Aikawa and Shimoda were completed and those of four sheets, Tsurugi, Kotohira, Saeki and Nachi were under preparation at the end of this fiscal year.

Division of Chemistry: Rocks, metallic ores, minerals, industrial minerals, coal, mineral springs and others which were analysed in this year were numbered at 626.

Museum: Specimens of minerals, rocks, ores and fossils

that have been deposited to the Museum up to this year are estimated at 7,600. Four ores, two minerals and a fossil specimen were contributed to the Museum by people outside of the Survey, to whom the deepest appreciations are hereby expressed.

Library : Number of reports, books and maps which were added to the Library was as follows ;

	Reports, Books and Magazines	Maps
By exchange at home.....	529	6
By exchange from abroad.....	781	100
By contribution at home	61	163
By contribution from abroad	77	1
By purchase	400	5
Total	1,848	275

General Affairs : Remarkable changes took place in the Survey staff: seven geologists, one assistant geologist, two topographers, five assistant engineers, one cartographer and three chemists were newly appointed, while four geologists, one chemist and one assistant engineer retired from their posts. Among those who retired, we regret to find Dr. K. Watanabe, the chief geologist, who devoted himself assiduously to public service for twentyeight years, and also Mr. H. Satô, geologist in charge of the topographic section, Mr. K. Uyemura, geologist and Mr. S. Wataſe, geologist.

The government appropriation granted to the Survey was as follows : —

For the geological survey	{	Salaries	¥ 45,782
works		Working expenses	52,319

For the oil-land survey		297,613
For the promotion of geological	} Salaries	27,169
and mineral survey.....		
	} Working expenses	194,371
For the augmentation of		
geophysical prospecting ...	} Salaries	5,115
	} Working expenses	29,713
Total		652,082

Publications : The following publications are issued from the Survey in this fiscal year for general distribution :

Report of the Imperial Geological Survey of Japan,

No. 121...Annual Report for the Year ended March 31, 1938.

By Shinji Yamane, Director.

The 1 : 75,000 Geological Sheet-Maps,

Kakunotate (Zone 8, Col. III, No. 28).

By Motowo Satô.

Fukui (Zone 22, Col. XII, No. 149).

By Ryûichi Sonobe.

Gobô (Zone 31, Col. XIV, No. 193).

By Tatsuo Suzuki.

Nobeoka (Zone 36, Col. XXI, No. 295).

By Kiyohiko Ishii.

The Topographical and Geological Maps of the Oil Fields of the Japanese Empire.

Sect. XXXVI, The Okanomachi Oil Field in Pref. Niigata.

By Kyukichi Watanabe.

Sect. XXXVII, The Southern Part of the Niitsu Oil Field

in Pref. Niigata.

By Rokurô Endô.

Sect. XXXVIII, The Akumi Oil Field in Pref. Yamagata.

By Tomofusa Mitsuchi and
Kinji Kanehara.

Sect. XXXIX, The Wakkanai Oil Field in Hokkaidô.

By Heiichi Takehara.

IMPERIAL
GEOLOGICAL SURVEY
OF
JAPAN

REPORT No. 122

TOKYO, 1939